

2016. 11. 30 (水)

光を照らす人になろう！

Vivian Bussinguer-Khavari

はじめに

皆さん、こんにちは。今日は初めてチャペルで話すことをとてもうれしく思います。その機会を与えてくださり、ありがとうございます。私は社会学部では英語の授業を担当していますが、英語の授業では日本語を使っていません。今日はチャペルで日本語を話す学生に伝えたとこ、ぜひ私も行きたいという学生さんがいましたので、何人か私の学生さんがいると思います。

昨日からチャペルのテーマが光ですので、私の話の内容も光というテーマにしました。私が具体的に話したいのは、私たちの内側にある光です。聖書の箇所は打樋先生に読んでいただきました。

マタイによる福音書の5章13節から16節について、皆さんと一緒に見ていきたいと思っています。ここでは光という話がありますが、私たちがこの世に住んで、自分たちがそれぞれの人生を生きていく中で、私たちが自分の光をどのように照らせばいいのかについて、皆さんと共に考えていきたいと思っています。

まずは、13節を見ていきたいと思えます。打樋先生、申し訳ありませんが、もう一度、13節を読んでいただけますか。

(打樋宗教主事が朗読)「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。」

この地の塩になろう

ありがとうございます。では、13節を見ていきたいと思えますが、ここでは、あなた方は地の塩であると書いてありますけれども、塩と言われても分からないですよ。これがどのように意味しているのかを見ていきたいと思えますが、今日は塩を持ってきました。

これは私の研究室にある塩ですけれども、私たちはコンビニやスーパーへ行けば、塩は種類もたくさん置いてありますし、私たちの今の生活には欠かせないものです。でも、これは普通の一般的なもので、値段を覚えていませんけれども、200~300円で買える少し安いものです。

聖書の話のイエス様の時代には、塩はとても大切なものでした。今のように簡単に手に入るものではありませんでした。塩のためにたくさん戦争がありました。ですから、この

聖書の箇所では、塩の価値がとても高いことを覚えておいてください。それが塩に関する1ポイントです。

塩でいいますと、次は味です。私たちはご飯を食べるときに幸せと感じますよね。幸せを感じる人はいますか。ご飯はおいしいと思いますよね。だから、日本のテレビの9割ぐらいが、おいしいということばかりです。ご飯を食べるときに、とてもうれしい気持ちになるのは、塩の味も関わっていると思います。

病院のご飯はまずいと分かる人はいますか。入院したことがない人でも、病院のご飯はまずいというイメージを持っていると思います。私もそうです。病院のご飯がまずいのは、塩があまり入っていない、味付けが薄いということです。味付けが薄いということは、味付けがないとほぼ一緒で、結果はまずいということになります。

ですから、塩の存在が私たちの幸せにはとても大事なものだと思います。塩には価値があり、味がおいしいという2つのポイントですが、最後にこの聖書の箇所が一番大事な話になりますが、塩には保存する力があります。

昔、冷蔵庫がなかった時代に、塩漬けにして食べ物を保存していました。日本には昔から漬物がありますけれども、今の漬物は味を楽しむためですが、昔は冷蔵庫がなかったので野菜やお肉を長持ちさせるため、それから、冬に十分に取れなかったものを維持するため、後で楽しむために塩を使っていました。その当時、この塩はとても大切な存在でした。

この聖書の箇所では、あなた方は地の塩であると書いてありますけれども、私たちの人

生にはどのような意味ですか。今、塩の3ポイントのお話をしましたが、これを考えるときに3番目のポイントの保存する力を強調したいと思います。聖書箇所にもありますが、塩に塩気がなければ、使い道がありませんと書いています。

食べ物が腐らないように使う塩自体に塩気がなければ、つまり、塩が腐れば使い道がないということです。私たちの人生や行動も、塩と同じ働きをしなければならぬと思います。皆さんも大学で勉強して、社会に出て自分に合う仕事を探して、自分の人生を生きていく中で、自分が社会の一部となる大切な役割があります。

塩が食べ物を保存していたように、私たちは社会の保存をする力もあります。この社会のいいところを守る力が私たちにはあります。ですから、13節はそのような意味だと思えます。

この世の光になるう

次に14節と15節を見ていきたいと思えます。打樋先生、もう一度、お願いします。

(打樋宗教主事が朗読)「あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともしして灯の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。」

ありがとうございます。では、14節にあなた方は世の光であると書いてありますが、ここでの光はどのようなことでしょうか。皆

さんは光と思うときに、どのようなイメージを持っていますか。

光はいいことですよね。暗闇の中を歩くときに、ちょっとした光があれば自分の目の前にあるものが見えますし、危ない所から守ることもできます。ですから、光というイメージは良いイメージだと思います。

しかし、私たちの人生の中での暗闇、つらいことや大変なことがたくさんありますが、その大変なことは、生まれたときからあるのではないかと思います。皆さんは赤ちゃん時代を覚えていないかもしれませんが、赤ちゃんを見れば分かると思いますが、赤ちゃんでもお母さんの母乳がなければ大泣きします。皆さんもそうでした。赤ちゃんにとって一番大切なものは母乳です。

4~5歳になってくると、アイスクリームかもしれません。今日はお母さんがアイスクリームを買ってくれるか、お母さんの言うことを聞かなかつたら、今日はお菓子を買ってくれないかという心配事です。皆さんの今の心配事は母乳でも、アイスクリームでもありません。

自分の問題や心配事の内容は、私たちの成長とともに変わっていくと思います。私たちの今の生活の中でたくさん問題がありますが、私たちは生まれたときから問題があります。

問題を手放そう

ここで実験をしたいと思いますが、風船を吹ける人はいますか。あまり自信がないですよね。

(チャペル内を歩きながら参加者に声をかける。何人かに風船を渡す。)

先生、吹けますか。どうぞ。頑張ってください。

(風船を受け取った参加者が、息を吹き込んで膨らまし始める。)

素晴らしいです。空気を指だけで止めてください。今日はこの風船が私たちの問題を表します。風船がまだありますが、欲しい人はいますか。大丈夫ですか。

では、今、私たちが関わっている問題、例えば、友達関係がうまくいかない、人間関係が辛い、経済的に困っている、病気がある、家庭の問題、仕事が見つからない、いろいろありますよね。

これは問題を指しますので、皆さんも問題を入れてください。

(風船に少し息を吹き込み、大きさを確認する。)

もっと問題があるので、少し待ってください。

(参加者、さらに風船に息を吹き込む。)

指で止めてください。

(前に座っている来客に声かける。)

問題が少ないですね。問題がなければいいですが、問題があればもう少し空気を入れてください。

ここに私の問題がたくさん入っています。この実験は皆さんにイメージしてほしいのですが、皆さんもそれぞれ自分の問題がありますので、ここにいっしょに全ての人も風船があるふりをしてください。

(風船の吹き込み口を指で押さえて、自分の顔の前に持つ。)

私の問題に集中してしまうと、このようになってしまい、私が皆さんのほうを見ても、皆さんのことを見ることができません。私の顔も皆さんは見ることはできないと思いま

す。

私たちが問題に関わっているときに、問題だけに集中してしまうと、このような見方しかできません。でも、これを少し横に置いて（風船を顔の横に持つ）自分の世界を見たら、たくさん可能性がある世界、そして、この人としゃべってみた、問題に対する解決もあるのではないかと、その広い世界があるのに私たちは問題だけに集中してしまい、この問題がどんどん大きなものになっていきます。

神様は私たちに光となってほしいのです。神様は私たちに自分だけの世界に集中してほしいのです。実は、人間誰も自己中心的です。小さな子どもは幼稚園に行くと、自分のおもちゃを自分のものと言いますが、誰も教えていないのにみんながそうです。

でも、自分の問題を少し横に置いてみますと、あまり大きな問題ではないことに気付くかもしれません。

この世をつくられた大きな神様は、自分の問題がそんなに大きなものではないと思います。問題はありますけれども、自分に光を照らす人になりたいという思いがあれば、問題を手放すこともできます。

（吹き込み口を指で押さえていた風船を手放す。）

自分の問題を手放してください。

（吹き込み口を指で押さえていた参加者も風船を手放す。）

ありがとうございます。

自分の問題を手放して、神様の力、神様の愛、神様のことに集中すると、とても大きなことができるようになると思います。自分1人だから社会のために何もできないというのは違うと思います。

皆さんそれぞれが置かれた所には使命があ

ると思います。皆さんが行ける所に私は行けませんし、私が行く所に皆さんは来られないかもしれませんが、それぞれの影響力のスペースがあると思います。自分の家族、自分の友達、今日は誰の力になれるのかという思いをぜひ皆さんにも思ってもらいたいです。

私も皆さんと同じように普通の人間です。で、たくさんつらいこと、大変なこと、疲れているとき、病気などいろいろあります。しかし、クリスチャンですから神様の力を借りて、毎朝起きたときにはお祈りで始めて、職場に出て皆さんを愛することを心にいつも思うようにしています。ですから、私の影響力ではいい影響を与えたいという気持ちがあります。皆さんにもそうなってほしいと思います。

終わりに

皆さんの今週の宿題は、誰か1人でも愛することです。周りにいる人々、家族の中の1人でも、友達の中の1人でも誰か少し励ましが必要なら、何か話を聞くだけでもいいので、その人たちの励ましになってください。そうすれば、この素晴らしい日本の社会がもっと素晴らしい社会になっていくのではないかと思います。最後に、皆さんとお祈りをして終わりたいと思います。

祈り

天のお父さん、イエス様の御名において御前に出ます。あなたが私たちをそれぞれ、とても大切な存在として創ってくださったことを感謝します。私たちが自分の内側にある、あなたからの良いもの、あなたからの光をど

のようにして照らせばいいのか、輝けばいいのか、私たちに今週も教えてください。私たちがこの世の祝福になれますように、あなたの方と祝福をお願いします。イエス様の御名

においてお願いします。アーメン。

今日はありがとうございました。

(社会学部准教授)